

令和6年度 シラバス

教科	国語	科目	言語文化	必修・選択	単位数	2
教科書・副教材等	新編 言語文化 (大修館書店)					
学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>					
評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度			
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。			
評価の方法	上記3つの観点について、授業への出席状況、授業中の態度、課題等の提出状況、発表の仕方や内容、定期考査等から総合的に評価を行う。					
	単元		主な学習内容			
前期	ことばと出会う		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉の森を育てよう」「季節の言葉と出会う」「漢字と仮名の使い分け」 日常使っている日本語を見つめ直し、語彙を豊かにする。</li> <li>・「児のそら寝」「十二の『子』文字」「阿蘇の史、盗人にあひてのがるること」 古文作品に親しむために、古典特有の表現について理解する。</li> <li>・「水かまきり」「とんかつ」 現代小説に親しみ、小説を読む楽しさを味わう。</li> <li>・「訓読のきまり」「格言」「再読文字」 漢文訓読の方法を理解し、漢文に親しむ。</li> <li>・「足し算の文化」「ほどほどのデザイン」 外国の文化と比較して、日本文化の特質について考えを深める。</li> <li>・「徒然草」「枕草子」 時代を超えて親しまれ受け継がれてきた、言語文化としての随筆文学を読み、その面白さを味わう。</li> <li>・「守株」「五十歩百歩」「蛇足」「借虎威」 故事成語について知り、その背景となるエピソードに触れる。</li> </ul>			
	古文に親しむ					
中期	表現を味わう					
	漢文に親しむ					
後期	文化を見つめる					
	随筆を楽しむ					
後期	現代に生きることば					
	物語を受け継ぐ					
後期	物語の広がり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「羅生門」 語り手に注目しつつ、作品の構成や人物の心情をとらえる。</li> <li>・「伊勢物語」「平家物語」 物語を読み、そこに描かれた心情や人物像を読み取る。</li> <li>・「祖母が笑うということ」「ことばは光」「コルベ神父」 言葉のもつ力について考えを深める。</li> <li>・「論語」を読み、孔子の思想やその影響について考える。</li> <li>・「夢十夜」「形」 近代文学の特徴や作品に込められた思想について、考えを深める。</li> <li>・「土佐日記」「更級日記」「おくのほそ道」 さまざまな旅を描いた作品を読み、古人の旅の思いを想像する。</li> <li>・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。</li> <li>・「完璧」「鶏鳴狗盗」「人面桃花」さまざまなジャンルの漢文を読み、漢文を楽しむ。</li> </ul>			
	ことばと生きる					
後期	古人に学ぶ					
	近代文学に触れる					
後期	旅への思い					
	詩歌の調べ 漢文を楽しむ					